

4月12日成田空港
出発時、全員で



スロベニアへの旅



小島 邦夫 氏
日本証券金融
顧問

1997年4月12日、社会経済生産性本部(当時)が企画した調査団(総勢20人)が成田空港をたった。通貨統合についてEU中核国以外の見方を探るといった趣旨で、オーストリア、スイス、イタリア、オランダを回るほか、周辺で将来のEU加盟が予想される国としてスロベニアを訪問することとなった。当時のわが国では、その名前を知っている人すらほとんどいない状況で、駐日スロベニア大使からのレクチャーを受けて知識を仕入れて旅立った。スロベニアには、オーストリア、スイスを経て4月17日昼過ぎに到着、ブレッド湖畔のチトー元大統領の別荘といわれるホテルで昼食を取った後、首都リュブリャナに入った。翌日は朝8時から午後5時まで中央銀行総裁や各省の大臣、次官や地元銀行幹部との面談が続き、こんな小さな国まで来てくれたと歓迎された。スロベニアは、旧ユーゴスラビアの西端、アルプスの東端に位置する人口200万人の小国ながら、旧ユーゴスラビアから最も早く独立し、当時すでに順調な経済発展を遂げつつあった。それでも、町行く人々や古



4月17日昼食後、スロベニア ブレッド湖畔にて

びた建物を見ると幾許かの貧しさを感じざるを得なかったが、官民首脳はいずれも若く、改革への強い熱意を持ち、援助に頼らず自力で発展を遂げたいという気概すら感じられ、団員一同いたく感銘を受けた。調査団はそこからイタリア、オランダを経て帰国したが、通貨統合については、当時わが国にあった懐疑的な見方とは異なり、もはや帰らざる川との印象を持ち帰った。

この間、メンバーに恵まれ、終始和気藹々と旅をした。帰国後時々集まろうということになり、「スロヴェニア会」と名付けた会合を今も続けている。その後、通貨統合も実現し、スロベニアも間もなくこれに加入することができたが、その姿を見ようと、10年後の2007年夏、夫人同伴の有志でスロベニアを再訪したのも懐かしい思い出である。